

# 『どこ狙うか考えようや!』

5歳児 2月

神功こども園



## エピソード

毎日にじ組対ほし組でドッチボール大会をして盛り上がっていました。

子ども対大人(保育者・実習生)でドッチボール大会をすることになり、結果は大人の圧勝でした。しかし、「もう1回子ども対大人でしたい」と全員が言い、大人との対決を楽しんでいました。

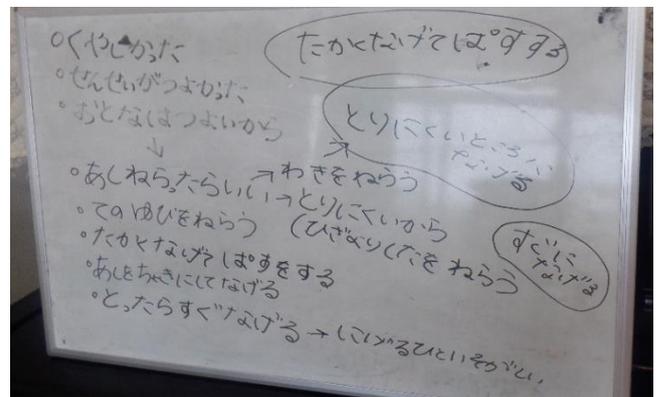
その後、クラスで振り返りをしました。「先生は取ったらすぐに投げてたから、取ったら早く投げたらいい(逃げる人が忙しいから、当てれる可能性が高くなる)」や「先生は(パスする時)高く投げたから、先生が届かないくらい高くパスしたらいい」など、大人の動きを見て気付いたことを取り上げて、同じようにしたらいいのではないかという考えが出ました。その他にも「足、特に膝から下を狙ったらいい」「(体の正面ではなく)脇を狙ったらいい」など、保育者が取りにくいところを狙って投げるといった考えも出ました。

友達の話に対して「うん、そうそう」「あー確かに」「次はそうしょ」などの声が上がりました。

その日の午後、子ども対大人ですると、振り返りで出た戦術を早速実践する姿が見られました。

## 保育者の思い

- ・クラス対抗で十分盛り上がっていますが、以前から子ども対大人でドッチボールをしたいと思っていました。実習生が2人来っていたので、保育者と実習生で大人チームを結成しました。
- ・子ども対大人ですること、刺激や変化をもたらしたり、ボールの投げ方やねらいといった戦術に気付いたりして欲しいと思いました。
- ・大人と対決したことで気付いたことや考えたことを出し合って、クラス全体で共有して欲しいと思い、振り返りの時間をもつことにしました。



## 家庭だったら・・・

これからうまくいかないことなどあるかもしれませんが、諦めずに頑張ってみようとしていたら結果だけではなく、そういった姿勢を認める声をかけてみてはいかがでしょうか。「ちゃんと見てくれている。分かってくれている」という安心感をもつことができ、そこからまた頑張ってみようとする意欲に繋がっていかと思います。

また、「どうしたらいいかな」と問いかけてみるのもいいかもしれません。子どもは遊んだり、何かに取り組んだりしながらも、よく見て考えています。「なるほど!」や「そこに気付いたのね、すごい!」という返事が返ってくるかもしれませんよ。

## 子どもの育ちや学び

大人と対戦することで、どうすれば取られないか、どこを狙うと当てられるのか気付いていました。楽しみながらも、保育者の動きに目を向けて、「先生が～したのは～だからかな」という風にどうしてそうしているのかといった意図に気付くことができました。

保育者の戦術や意図を考えて気付いてる!!



良い着眼点だね!!